

令和3年度埼玉県社会福祉大会の実施結果について ともに支え合い明るい未来へ ～すべての人に健康と福祉を～

埼玉県の福祉の向上に功績のあった団体や個人の方々を表彰し、その功績をたたえました。

また、社会福祉の一層の増進を目指して、参加者一同の総意の下、「大会宣言」が採択されました。

1 日 時 令和3年11月2日（火）11：00～11：35

2 会 場 埼玉会館大ホール

3 概 要

(1) 表彰	埼玉県知事表彰	232名	61団体
	埼玉県社会福祉大会会長表彰	522名	39団体
	埼玉県共同募金会会長表彰	75名	41団体

(2) 知事挨拶

新型コロナウイルス感染症は、様々な面で私たちの生活に多大な影響を与えました。そのような状況におきまして、地域のつながりを保つためには、地域をよくご存じの皆様の知識・経験、創意工夫が必要であったと考えます。

例えば、民生委員の皆様の活動におきましては、対面に代えて電話やポストカードを利用するなど、皆様が様々なアイデアを出し合い、人と人とのつながりを大切にされている姿には頭が下がるところです。

県では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう地域包括ケアシステムの構築や、地域で子供を育てることができるよう子供の居場所づくりなど、地域のつながりが重要となる取組を推進しています。

私は皆様と手を携え「ワンチーム埼玉」でこれらの取組を更に推進し、「日本一暮らしやすい埼玉」の実現に努めていきたいと考えております。

(3) 来賓祝辞【埼玉県議会議長 梅澤 佳一 様】

県議会においては、昨年3月に議員提案により、全国初となる「埼玉県ケアラー支援条例」を可決し、介護者の支援に取り組んでいます。また、今年4月の国の実態調査では、中学生のおよそ17人に1人が「ヤングケアラー」であることが判明しました。

核家族の増加など、世帯構造が変化する中、介護者が抱える悩みや負担を、社会全体の問題としてとらえ、支え合う「地域共生社会」の構築が重要であると考えます。

地域社会における共助の要として現場で活躍・奮闘されている皆様の役割は大変重要であるものと存じます。

県議会といたしましても、福祉分野をはじめ、県民の生活を支える施策の充実を図り、誰もが安心して、幸せに暮らすことのできる地域づくりに引き続き全力で取り組んでまいります。

(4) 大会宣言

現在の日本では、人口減少などの社会経済情勢の変化や単身高齢世帯の増加に見られる家族構成の変容等に伴い、地域のつながりがより重要になっています。

望まない孤独や社会的孤立、貧困、虐待、ヤングケアラーの問題など、福祉課題が複雑かつ多様化しています。

このコロナ禍や近年頻発する自然災害による困難な状況においても、福祉を支える多くの関係者が一丸となって、この課題に向き合い、乗り越えていくことが必要です。

私たち福祉関係者は、これまで培ってきた人とのふれあいを大切にしつつ、創意工夫により、地域住民がつながり、支え合える社会を創造し、安心して暮らせる地域づくりを推し進めてまいります。

私たちは、多様性を大切にしながら、互いに支え合い、「誰一人取り残さない」地域を目指す埼玉づくりの実現に取り組み、地域福祉の更なる推進を決意し、ここに宣言します。

4 参加者 約80名

5 その他 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、感染拡大防止対策を徹底した上で開催した。

